**座間市地域包括ケア会議及び在宅医療推進協議会活動報告書**

平成２８年７月１２日

|  |  |
| --- | --- |
| チーム名 | 【座間市あんしんノート】チーム |
| 実施年月日 | 平成２６年８月～平成２８年７月 |
| 内容 | 平成26年度・あんしんノートチーム発足、原案作成、ノート試行平成27年度・メンバー増員、ノート利用説明会、利用開始、モデルケースによる試行平成28年度・書式変更、多職種連携研修への調整・開催 |
| チーム構成員 | 班長；高橋（あおば福祉サービス訪問介護事業所）松山（マザーホームクリニック）中島（ケアセンター座間苑）柏井（青葉福祉サービス訪問看護事業所）小林（座間市社会福祉協議会川南（座間市相武台地域包括支援センター）村山（相模大病院）村上（訪問介護あすか）近藤（ケアセンター座間苑）久保（ひまわり訪問看護リハビリステーション）景山（あおば福祉サービス相武台） |
| 議　事　録 |
| 議事 | ≪平成26年度≫1、「連携ノート」作成メンバーを選出し、平成26年9月より開始。対象者が通院・ディサービスなどに持ち歩くことを想定し、サイズ、バッグに入れる等ノートの形態や、モデルケースを選出し試行。①モデルケース3件。医師・医療関係者及び介護サービス提供事業所の方に使用していただき、使い勝手やどのような情報が必要なのか、検証していく。②関係者がノートの記載内容をいつでも見ることが出来るようにしておく。③前半　11月10日～12月10日　書式を作成し、これに記載してもらう。④後半　12月11日～1月10日　各事業所が使用している書式をそのまま使用し、これをノート（バッグ）の中に入れてもらう。⑤上記前半後半と分けることで比較、検討を行う。⑥11月4日、協力事業所向けに、ノート試行の説明会開催。⑦終了後、アンケートを実施し書式の見直しを行う。2、平成27年3月、「座間市あんしんノート」のファイル作成。但し、書式は試行協力ケースのアンケートを基に、更に検討を重ね、より使いやすくしていく。≪平成27年度≫1. チームメンバーの増員

平成27年4月、ノートの作成に当たり、ディサービス事業所の方がメンバーに居ないこと、どのようにしたら使いやすいか、より多くの意見を取り入れるため増員した。1. 座間市あんしんノートの利用開始（平成27年7月）
	1. ノートの利用に関する説明会を、開催。各開催時に、各事業所1冊ずつノートを配布した。

・5月14日　55名34事業所　参加・5月18日　54名30事業所　参加・9月24日　35名28事業所　参加。* 1. ノート利用開始。介護支援専門員協会、ざまりん介護、FAXにて周知を行った。
	2. モデルケースによる試行。

前期；市内のCMと契約し、ディサービスを利用している方を対象とした。・平成27年7月～9月　モデル16名、47事業所。・平成27年10月アンケート実施　回答ケース9名、25事業所後期；前期との比較のため、市外のディサービス利用者も対象とした。・平成27年10月～平成27年12月　モデル11名、40事業所・平成28年1月アンケート実施　回答ケース3名、29事業所アンケートの結果から、ノートの書式変更を検討する。≪平成28年度≫1. 平成27年度ノートの試行アンケートから、書式の見直しを行った。
	1. ノートは、利用者が使いやすいようにカスタマイズして利用してもらうもの。書式を準備するが、どのシートを利用するかについては、利用者に任せる。
	2. 医師の意見により、基本情報記載シートを作成。これは、個人情報が記載されることになるが、ノート利用申請時に同意書を得ていることから、関係各事業所が把握することとして良いものと考える。
2. 多職種連携研修会開催について
	1. ノートを利用してもらい、アンケートをした結果を市のホームページに掲載したが、利用の仕方などまだ浸透していないと感じる。ノートの利用に関する報告と使用法の説明、また医療と介護の連携について事業所の皆様に共有してもらうことを目的に、多職種連携研修として開催することを提案した。
	2. 調整の結果、研修会開催決定。

・平成28年7月13日　まとめは、8月のケア会議後に行う。 |
| 今後の課題まとめ | 1. 多職種連携につながるあんしんノートの利用の仕方の、検討。
2. あんしんノートの利用率アップにむけて、理解と普及をどのように行うか。
3. あんしんノートを利用することで、メリットがあるようにしていく方法。

・「利用している事業所」がわかるような工夫。アピールができるような、ステッカーを作るなど。 |